

～皆さまのご意見をお聞かせください～

(募集期間：令和3年2月8日(月)まで)

(仮称) ひたち若者かがやきプラン 【素案】

「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、若者世代が生きがいを持ってかがやき、住んでみたいと思える魅力を若者世代の参画により創り出し、実践できる仕組みや、支援する体制づくりを目指し、学識経験者や関係団体などの皆さんの参画を得て、「(仮称) ひたち若者かがやきプラン」の策定作業を進めています。

計画策定に当たり、市民の皆様からプラン素案に対するご意見を募集します。

お寄せいただきましたご意見は、最終的な決定を行う際の参考とさせていただきます。

ご意見は最終ページに添付している用紙にご記入の上、ご提出くださいますようお願いいたします。

目 次

- I 計画策定の趣旨
- II 若者の現状
- III 若者の課題
- IV 基本理念・基本方針
- V 施策体系
- VI 個別施策
- VII 計画の取り組み方

I 計画策定の趣旨

I 背景・目的

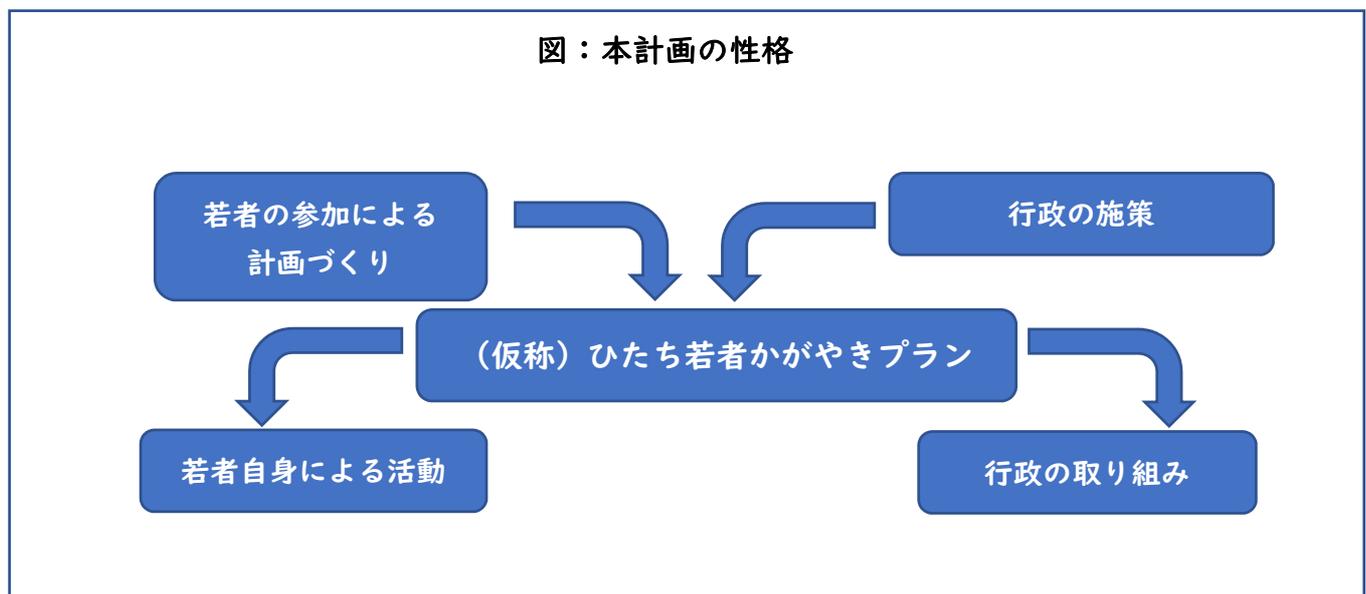
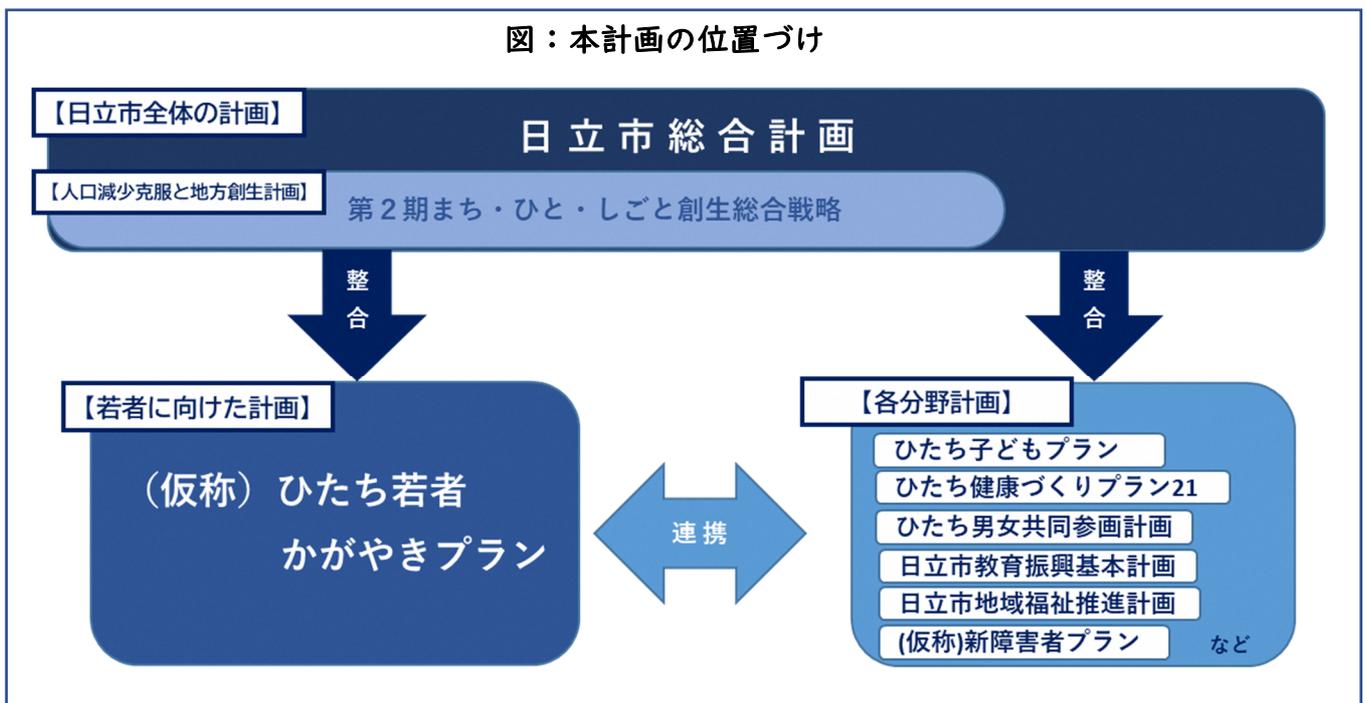
- (1) 本市ではこれまで、子育て支援や、地域医療体制の整備、雇用の確保など、幅広い施策を総合的に推進し、市民の皆様が将来にわたり、安全に安心して住み続けることが出来る環境サービスの維持・向上に取り組んでまいりましたが、依然として、就学、就業、住宅の住み替えなどをきっかけとした、子育て世代を含めた若者、特に女性の東京圏や近隣自治体への転出超過による社会減の影響や、人口減少が続いている状況となっています。
- (2) これらのことを踏まえ、2020年3月に策定した「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、若者の定住を促進し、人口減少を和らげ、市民一人一人が暮らす地域において豊かさと生活の充実感を享受できるまちを目指し、「子どもには夢」を、「若者には輝き」を、「働く世代には充実感」を、「シニア世代には生きがい」を、常に持ち続けていただけるような施策を推進するため、基本方針に若者の定着に向けた施策を重点的に推進することを掲げ、その施策の一つとして、若者が主体となり、同年代の交流や仲間づくりを行い、活躍できる体制づくりを進める施策の方向が示されました。
- (3) その施策を具体化するためには、若者世代が生き生きと輝くことで、地域全体の力を高める原動力につながり、子ども、働く世代、シニア世代に与える影響も大きいものになることから、若者世代を中心とした学識経験者、起業家、各種団体代表、大学生等で構成する策定会議を発足し、若者世代の参画により創り出し実践できる仕組みや、支援する体制づくりを主眼に、実効性のあるプランとして策定します。
- (4) さらに、若者世代にとって「育ちの場」「学びの場」「成長の場」「安住の場」「活躍の場」となるための環境づくりを推進するためのプランとします。

2 計画の位置づけ・性格

本計画は、「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、若者世代の活躍と支援に関する環境づくりを推進する計画として策定します。

また、「日立市総合計画」や、「ひたち子どもプラン」「日立市教育振興計画」などの各分野計画との整合性を図ります。

さらに、これからの時代を担う若者自身により策定した本計画に基づき、日立市を舞台にかがやきながら、成長し、暮らしていける環境づくりの実現に向け、若者と日立市が共に取り組むことを示した計画としていきます。



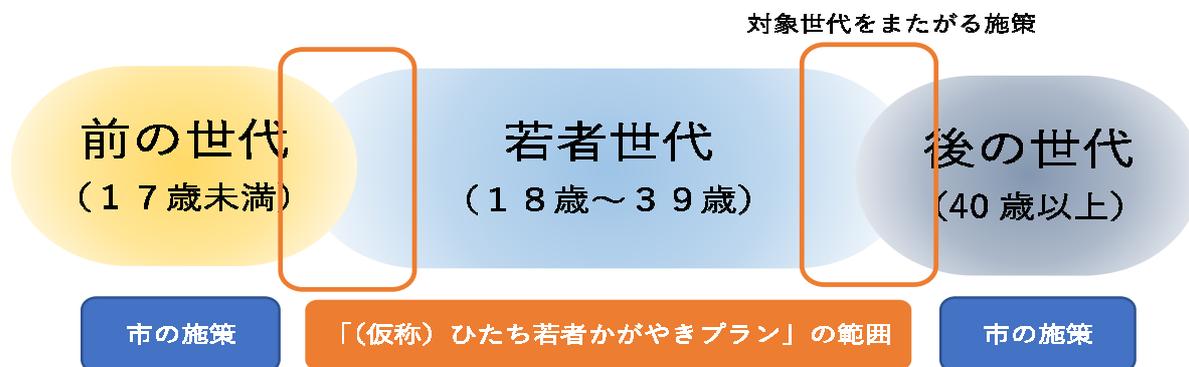
3 計画の対象

(1) 対象世代は、若者世代（18歳～39歳）とします。

[若者の定義]

児童福祉法では、18歳未満を児童と定め、子ども・若者育成支援推進法に基づき厚生労働省で策定した「子ども・若者ビジョン」では、39歳までを若者と定めていることから、日立市の若者の定義は「18歳から39歳まで」とした。

(2) 若者世代（18歳～39歳）の前後世代に対象となる施策が、既に策定されている「ひたち子どもプラン」や「日立市教育振興基本計画」等で推進している場合は、対象となる計画へアクセスできるようにします。



4 計画の期間

本計画は、令和3年（2021年）度から令和7年（2025年）度までの5年間とします。ただし、今後の社会情勢等により、必要に応じ見直しを行います。

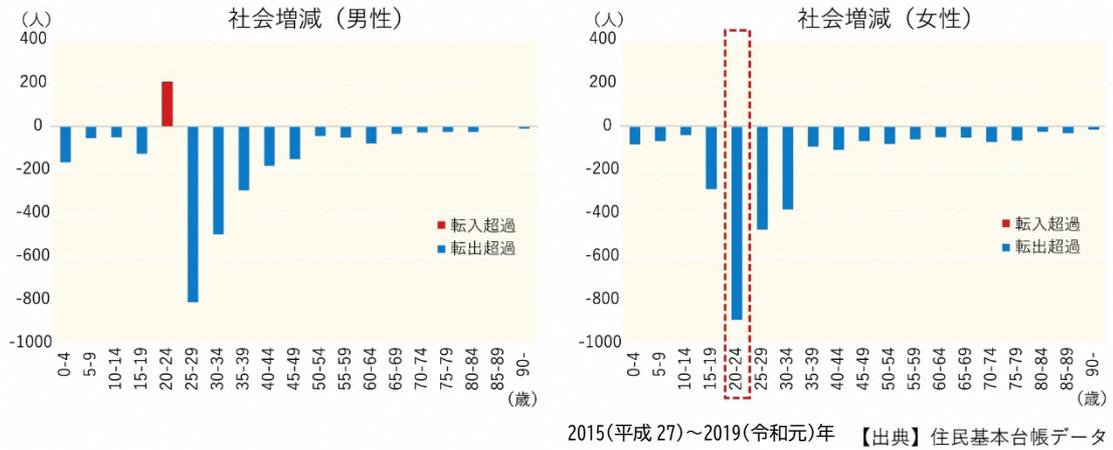
図：計画期間

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
(仮称) ひたち若者ががやきプラン	計画策定	計画期間 (R3～7年度)				
第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略	計画期間 (R2～6年度)					
日立市総合計画	後期基本計画期間 (H29～R3年度)		基本計画期間 (R4～8年度)			

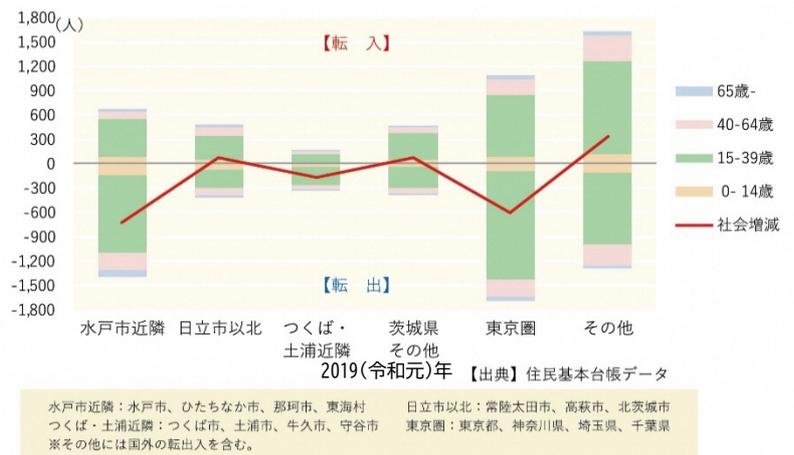
Ⅱ 若者の現状

Ⅰ 人口構成における若年層の動向

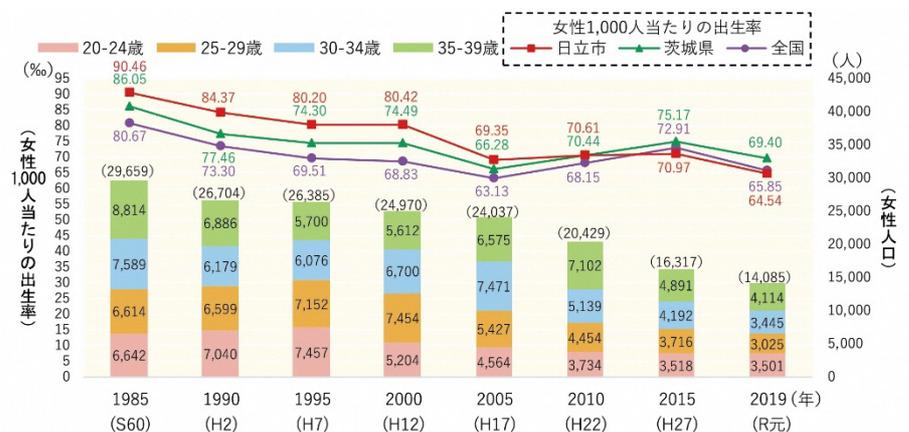
■20～24 歳女性の転出超過が大きい（20～24 歳男性は転入超過）。



■「水戸市近隣（水戸市、ひたちなか市、東海村）」及び「東京圏」への転出超過が多い。

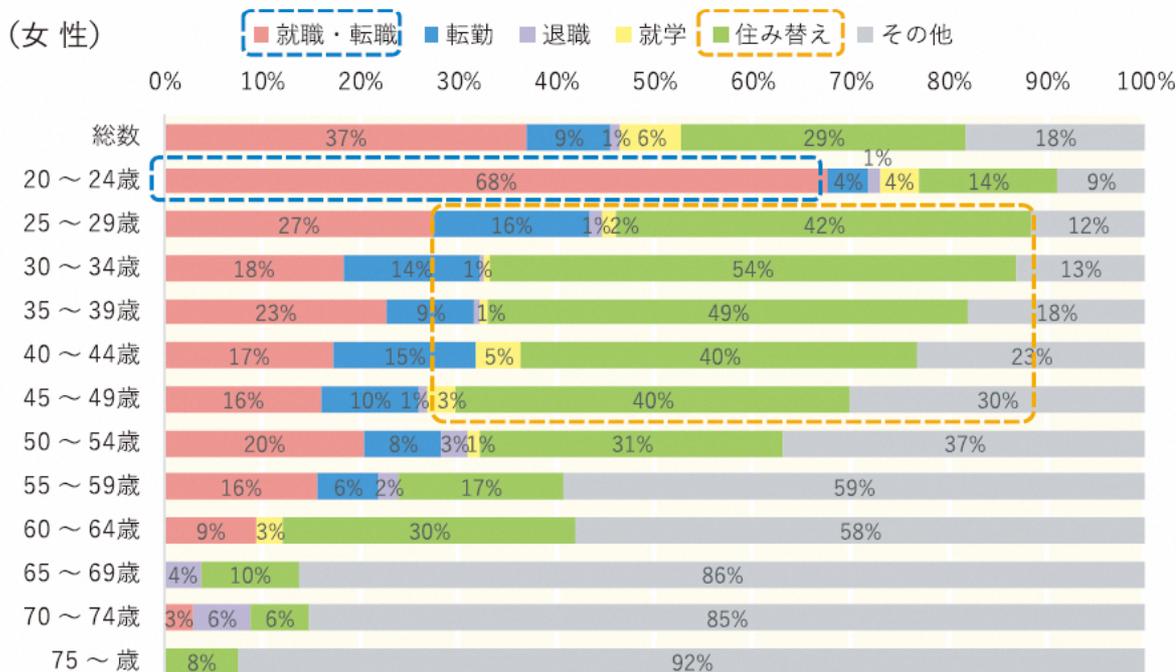
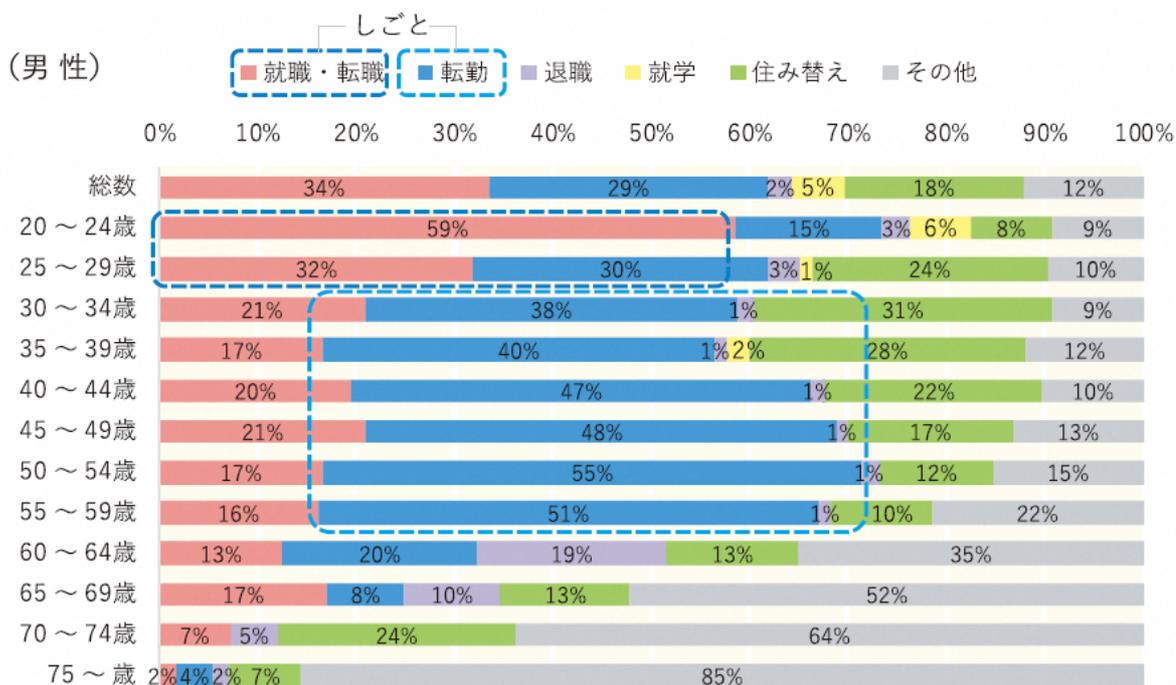


■本市の女性 1,000 人当たりの出生率は、全国、県と比較して低い。また、20～39 歳女性人口の減少とともに出生数も減少。



【出典】 国勢調査、人口推計（総務省統計局）、人口動態統計（厚生労働省）、茨城県常住人口調査結果報告書

- 男性は、20～29歳は就職・転職、30～59歳は転勤が多く、仕事にかかわる移動が多い。
- 女性は、20～24歳は、仕事にかかわる移動が多く、25～49歳は、結婚や子どもの成長に伴い「住まい」を求めた住み替えが多い。



【出典】 転出入者窓口アンケート調査結果 (2015(H27)～2019(R元)年平均値)

その他の傾向

- 総人口に占める20～39歳女性人口の割合が低い。(日立市 8.8%、水戸市 11.0%、ひたちなか市 10.8%)
- 20～29歳人口の男女比差も大きい。(日立市 男 10 : 女 7 水戸市 男 10 : 女 10 ひたちなか市 男 10 : 女 9)

2 意識調査結果からみられる傾向

(1) 調査の対象・方法

調査地域	日立市全域	首都圏 (埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)
調査対象	市内在住 18～39 歳までの男女	首都圏居住の 18～39 歳までの男女
標本数	2,000 票 (男性 1,000 票、女性 1,000 票)	450 票 (男性 225 票、女性 225 票)
抽出方法	市内在住の 18～39 歳までの 2,000 人を無作為抽出	インターネット調査会社登録モニターの 18～39 歳までの 450 人を無作為抽出
調査方法	郵送	インターネット
回答方法	調査票返送または調査票記載の QR コードを介しインターネットで回答	
調査期間	令和 2 年 11 月 4 日～11 月 24 日	令和 2 年 11 月 2 日～11 月 24 日

(2) 回収結果

調査地域	日立市全域	首都圏 (埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)
発送数	2,000 件	450 件
回収数	480 件	450 件
回収率	24.1%	100%

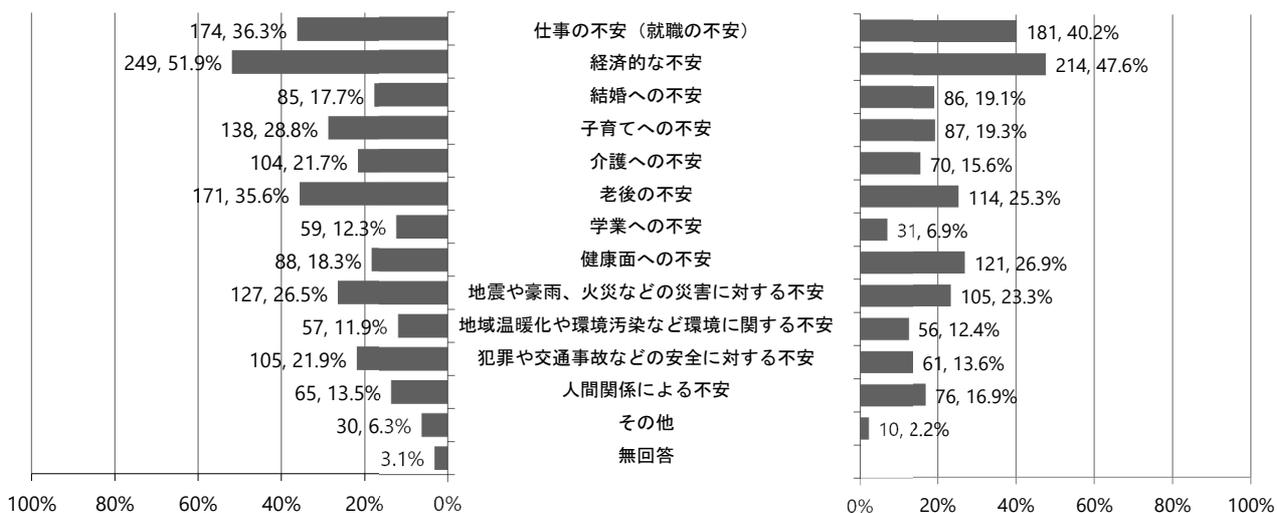
■現在不安に感じていること

質問 9 現在、不安に感じていることはどのようなことですか。

市内在住者、首都圏居住者とも、現在の生活の中で、若者は経済的な不安、仕事の不安（就職の不安）などを持つほか、老後の不安など将来への不安も感じている。

【市内】

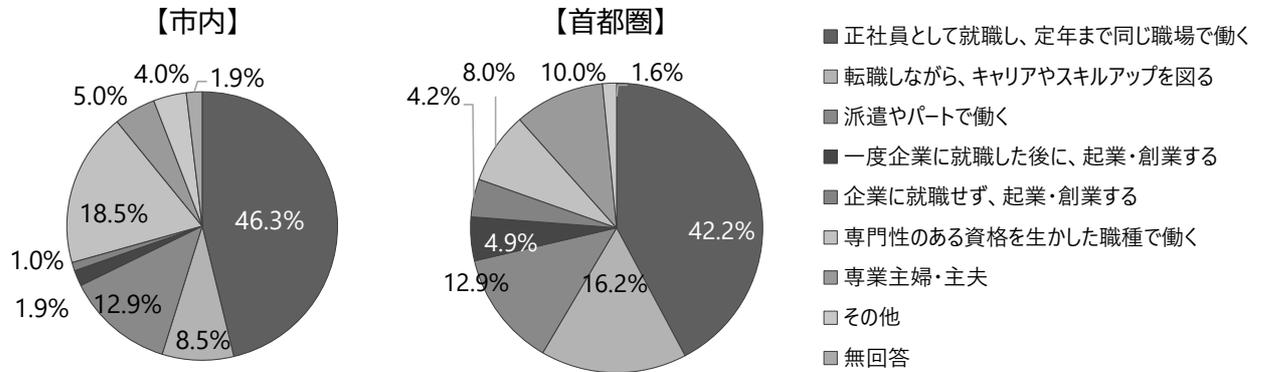
【首都圏】



■希望する働き方

質問13-6 あなたは、どのような働き方をしたいと思っていますか。

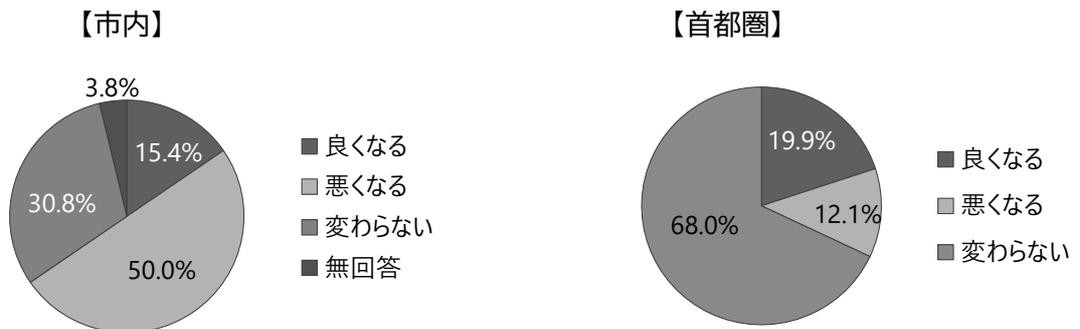
日立市在住者は、首都圏居住者と比べて、キャリアアップより専門性を生かした働き方を志向している。



■20年後の日立市

質問15 20年後の日立市は、今と比べてどうなると思いますか。

日立市在住者は、20年後の日立市に対し、悪くなるという回答が多く、希望が持てていない人が多い。



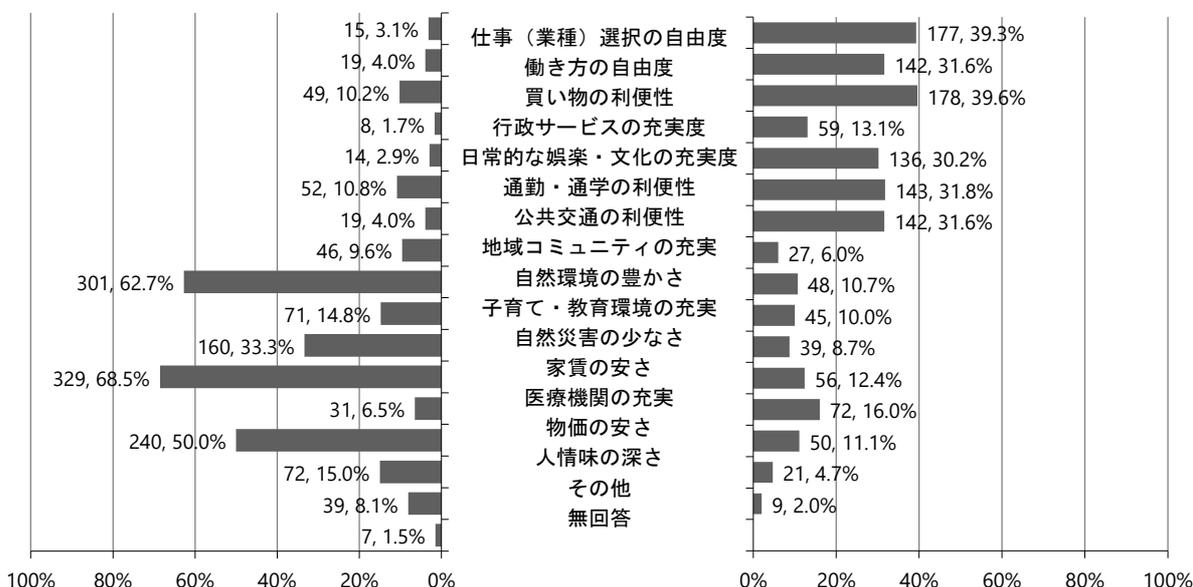
■大都市圏に住むことと、日立市のような地方都市に住むことのメリット

質問 22 東京周辺のような大都市圏に住むより、日立市のような地方に住むことのメリットを教えてください。

市内在住者が感じる日立市に住むメリットは、自然環境の豊かさや、人情味の深さに加え、家賃が安いなどの経済的負担に対するものが多い。一方、首都圏居住者が大都市圏に住むメリットは、仕事(業種)選択の自由度、働き方の自由度などのほか、買い物・交通・通勤・通学の利便性など、日々の生活で自分らしさや、便利さに対するものが多い。

〔大都市圏に住むより日立市に住むメリット〕
【市内居住者】

〔日立市のような地方都市に住むより大都市圏に住むメリット〕
【首都圏居住者】

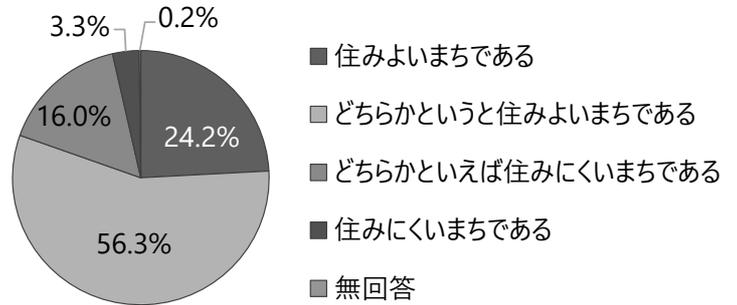


■日立市の住み心地

質問8 日立市の住み心地についてどう思いますか。

日立市在住者の約8割が「住みよい」と評価している。

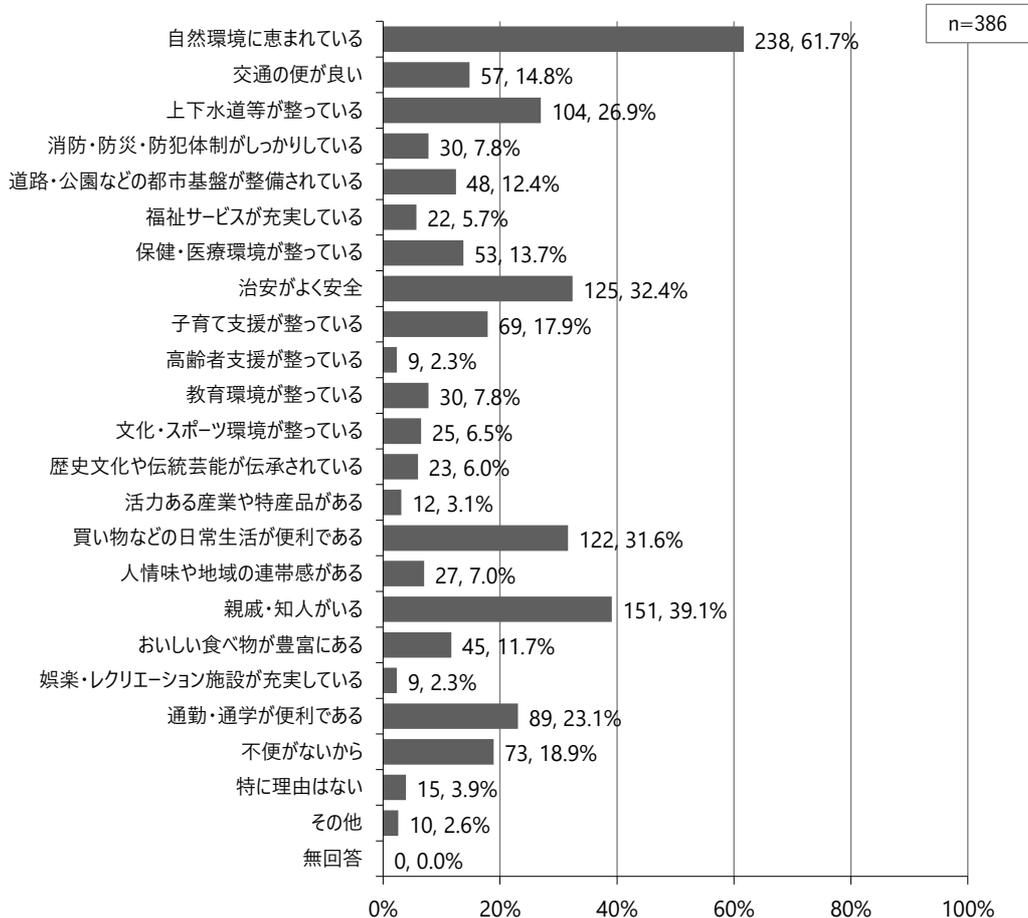
n=480



■住みよいと感じる理由

質問8-1 質問8で「1 住みよいまちである」「2 どちらかという住みよいまちである」と回答した理由を教えてください。

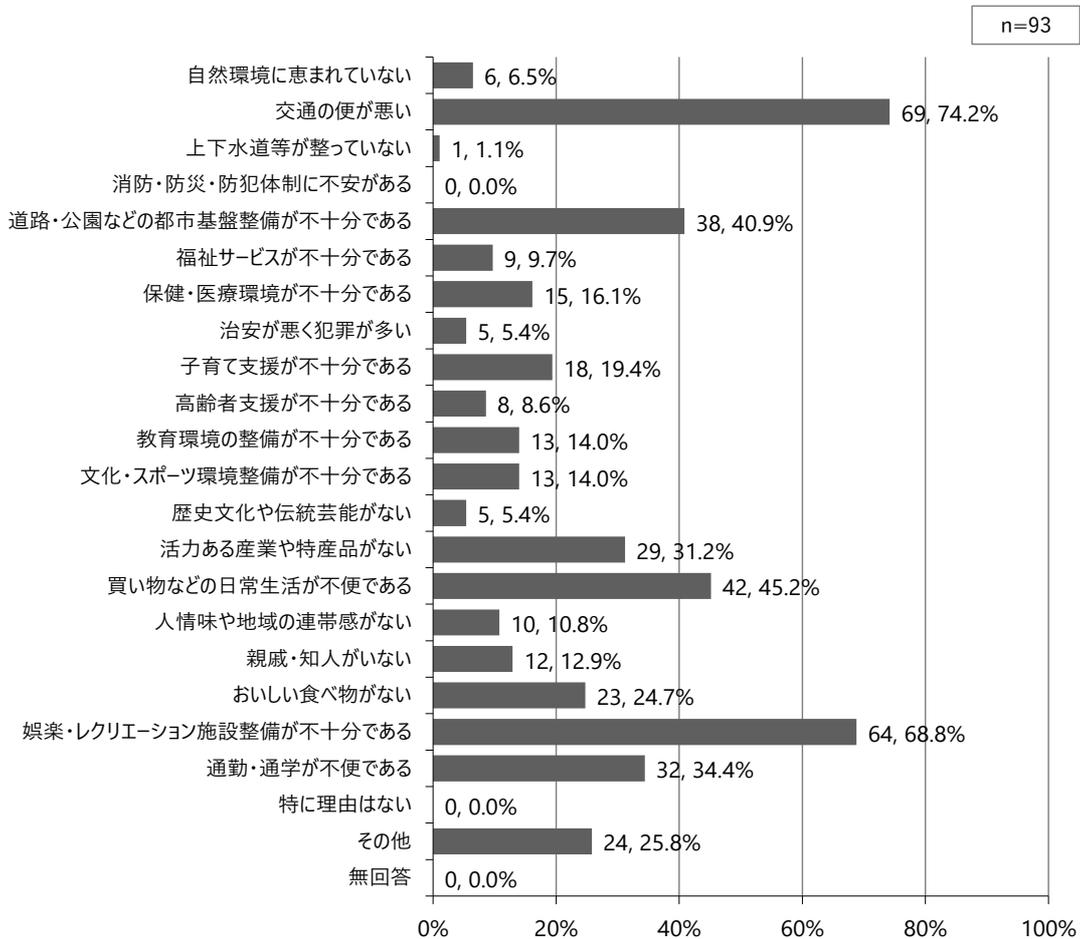
自然環境に恵まれているや、親戚・知人がいることが多いほか、治安がよく安全や、買い物などの日常生活が便利など、生活環境に関する理由が多い。



■住みにくいと感ずる理由

質問 8-2 質問 8で「3 どちらかというに住みにくいまちである」「4 住みにくいまちである」と回答した理由を教えてください。

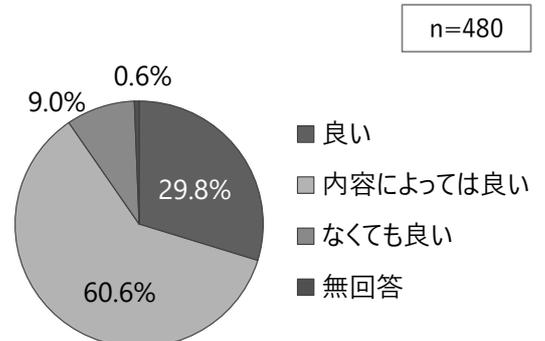
交通の便が悪い、娯楽・レクリエーション施設整備が不十分、買い物などの日常生活が不便などの生活環境に関する理由のほか、道路・公園などの都市基盤が不十分や、通勤・通学が不便、活力ある産業や特産品がないなど、都市基盤環境や産業に関する理由が多い。



■若者が気軽に集える場所の必要性

質問 16 日立市内に若者が気軽に集える場所があると良いと思いますか。

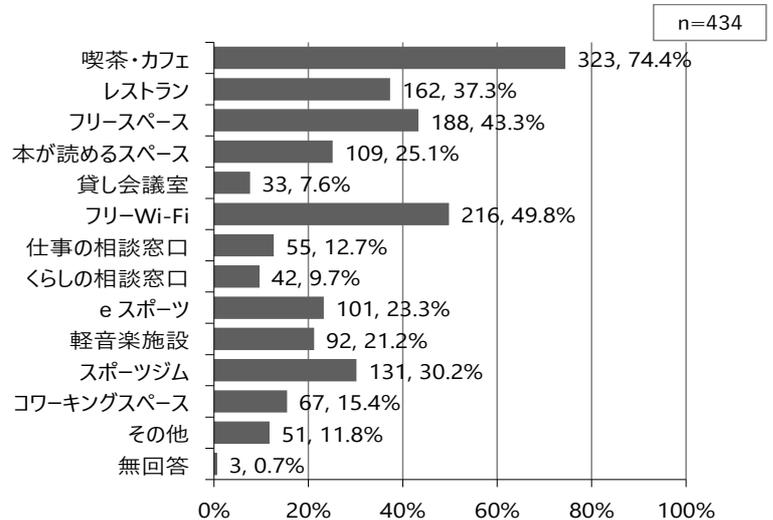
市内に、若者が集える場所があることを期待している。



■若者が気軽に集える場所があると良いもの

質問 16-2 質問 16 で「1 良い」「2 内容によっては良い」と回答した方に伺います。若者が気軽に集える場所があると良いと思うものはなんですか。

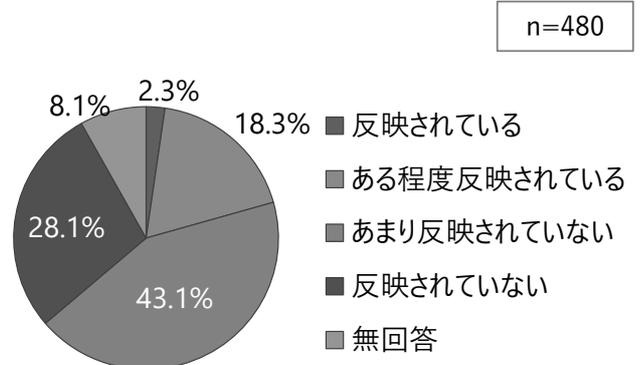
喫茶・カフェ、フリーwi-fi、フリースペースなどが多い。



■市政に対して若者世代の意見が反映されていると思うか。

質問 19-1 市政に対して若者世代の意見が反映されていると思いますか。

市政に対して若者の意見が反映されていると感じていない。



その他の傾向

【現在の暮らしへの満足度】

・市内の若者のほうが、首都圏より満足度は高い

【現在の就労環境への満足度】

・市内の若者のほうが、就労環境への満足度は高い

【結婚の状況・出会いのきっかけ】

・市内の若者のほうが「既婚」の割合が多い。

・出会いのきっかけは、市内・首都圏ともに、「学生時代のクラスメート」「職場またはその関連先」「友人や職場の同僚、先輩からの紹介」が多いが、首都圏は、「インターネット」での出会いも多い。

【日立市に対するイメージ】

・市内・首都圏ともに「全国的に知名度があると思う」「犯罪が少なく治安がいいため安心して暮らせる」と感じており高い評価だが、市内と首都圏を比較すると、全体的には市内の方が評価が低い。

3 ワークショップからみられる傾向

20年後、私たちはこうありたい

どこでも働ける環境
(時間と場所にしばられない)

世代を超えたネット
ワークを作りたい

住む場所と働く場所が
異なる時代
働く場所に選ばれる

得意を活かせる
選択肢がある

学校以外の学びの場
がある

コミュニティに簡単に
アクセスでき、社会と
つながることができる

不安のない暮らしが
したい

挑戦する若者を応援
する

若者が集まって生まれる賑わいとは？
(こんな賑わいを創りたい)

環境を提供すること
で、若者が動き出す

若者自身が企画実践
する

自分のためにもな
り、次につながるイ
ベントの実施

自分が暮らしていくために日立市はどうあって欲しい

時代が変われど変わら
ない～日立らしさをそ
のままに～

新しいこと、新しい
人を応援する

発信力の強化と分か
りやすい情報へのアク
セス

若者が主体的に動け
る仕組みづくり

ここに行けば解決す
る場所づくり

「かがやく」ってどういうこと？

自分史上最高である
とき

人との縁を感じたとき

自分のやりたいこと
をやっているとき

日立に誇りが持てた
とき(シビックプライ
ド)

思いがかなったとき

自分らしく生きるこ
と

4 現状から見える計画のGOAL

若者

自分らしく生き、
自走に向けて活動
する



日立市

若者を理解し、ア
クセスしやすい仕
組みを作る



若者+日立市

日立を若者がか
がやくまちにす
ること

「かがやく」とは？ 自分らしく生きること

Ⅲ 若者の課題（若者が必要としていること）

今の生活に満足しているが、漠然とした確かな不安がある

- 市内若者の6割以上が今の暮らしに満足しているものの、経済的な不安や、仕事への不安を抱えている
- 将来の暮らしについて、首都圏若者の約7割が良くなると回答しているが、市内若者は約5割と、明るい未来を描きにくくなっている。
- 20年後の日立市の状況について、悪くなると回答したのは、首都圏若者が約1割と低かったのに対し、市内若者は約5割が悪くなると回答している。
若者の不安を受け止まれる場面・場所が必要である。
若者同士が交流でき、共感しあえる環境が必要である。
若者世代が行政に関われる仕組みが必要である。

日立市での暮らしの中で、若者が挑戦できる機会がない

- 市内若者も首都圏若者も、正社員として就職し定年まで同じ職場で働くことを求める人が約半数である。異なる環境でも、安定した職を求める若者が多い。
- 一方で、首都圏若者は、転職しながらスキルアップ等を図ることを求めているが、市内若者はその意識が低い。
今の暮らしに満足しているものの、暮らしの中で、挑戦や高揚感、期待感を得られる環境が必要である。
自分にとって心地よいライフスタイルを確立するための知識を得る機会が必要である。

若者世代の意見を受け止める環境がない

- 市内若者の4割が市政に関心があると回答している。
- 自分たちの意見が反映されていないと感じているが約7割と多い。
- 行政に意見を反映させる方法としては、若者世代の意見を吸い上げる仕組みづくりや、若者専用 SNS 投稿の仕組みづくりを求める声が多い。
若者が意見を行政に伝え、行政は受け止めることが必要である。
若者が若者に、若者が行政に気軽に相談できる環境が必要である。

若者が気軽に集える場所がない

- 市内若者の約9割が、若者が気軽に集える場所がほしいと回答している。
- 場所については、駅周辺への希望が多く、中でも日立駅周辺を希望するという回答が約5割である。
- 場所に必要なツールは、カフェ・喫茶店、Wi-Fi 環境、フリースペースが多い。
若者が集える場所の整備が必要である。

日立のことを知りたいけれど、情報にアクセスできない

- 日立市はたくさんの様々な施策を行っており、情報発信もしているはずだが、その情報にアクセスできない。
情報発信しても埋もれてしまうような発信の仕方である。ある程度見続けてもらえる面白いコンテンツが必要である。
今の大学生の主流はインスタである。若者のツールを常にアップデートする必要がある。
若者に必要とされる情報を発信する環境づくりが必要である。

若者は繋がりを求めているが、繋がれない

- 市内若者の約5割が既婚である。未婚の理由は、結婚しても良いと思える相手に出会っていないが1番多い。
- 子育て中でも、社会とのつながりを持ち続けたいと思っており、それが、子育てにも良い影響を与えることがある。
- 日々の生活の中で人との交流、出会い、支え合いを求めている。
- 様々なコミュニティ（地域コミュニティ含）とのつながりを求めている。
地域コミュニティを含めた、多様なコミュニティと若者がつながれる仕組みづくりが必要である。
若者同士が出会い・交流できる環境が必要である。

若者が求めているモノ・コトが、日立市で不足している

- 日立の住み心地について、市内若者の約8割が住みやすいまちと回答しているが、残り2割が住みにくいと回答している。住みにくい理由としては、交通の便が悪いや、娯楽施設付属、買い物不便などの回答が多い。
- 子育て支援としてほしいサービスとして、保育園等や医療体制の充実を求める声が多いが、ソフト面のサービスとして妊婦・出産・育児について相談できる場の充実を求める声も多い。
- 就労に満足していない理由として、給料が少ない、休めない・残業がある、人間関係が良くない、をあげている人が多い一方で、転職を希望する人が少ない。
- 首都圏若者が移住する場合必要な情報でおおかったのが、住まいに関することや、交通・買い物等日常に関することを知りたがっている。また、感じる不安としては、移住の費用と移住先での仕事が最も多い。
職業や生き方の選択ができ、成長できる機会を提供することが必要である。
市外に発信する情報は、若者が求める内容や方法で行うことが重要である。
若者が求める支援の情報発信と、気軽に相談できる窓口が必要である。
若者同士が相談しあえる仕組みが必要である。

IV 基本理念・基本方針

1 基本理念

若者世代が、本来持っている力を存分に発揮でき、生きがいを持ってかがやき、日立市に住んでみたい、住み続けたいと思えるまちを目指します。

目指すべき方向に近づくためには、若者世代が自らの意思で参加・参画できる環境や仕組みを整えることと、踏み出すための一步を行政等が支援できる体制づくり、さらには、他世代や多様なコミュニティとのつながりが必要であります。

それらを推進するための基本理念として、次の3つを掲げ、各種施策や取組みを進めていきます。

挑戦と成長を支援する

日立の誇りと歴史を創る

失敗を笑わない

2 基本方針

基本理念を実現するため、次の5つの基本方針を掲げ、施策を展開していきます。

(1) 若者が挑戦できる環境づくり

若者が社会をつくる一員、日立市の担い手としての意識を育む取組の充実や、若者同士はもちろん、経験や知見を持つ他世代や各種コミュニティとの交流機会・ネットワークの創出を図り、若者のアイデアによるまちの魅力づくりやイベント等の実践を通して、若者が様々な挑戦に向けて力を注ぎ、活躍できる環境づくりを推進します。

(2) 若者が集まる場づくり

若者が気軽に集える場所の整備を行い、若者世代の活動拠点として、若者自身が運営できる仕組みづくりを行います。そして、この場所が様々な世代の人が行き交い、新しい出会いや繋がりが生まれ、来るたびに新しい発見がありワクワクさせてくれる日立の新たな魅力を伝える育ちの場となることを目指します。

(3) 若者が成長できる環境づくり

従来とは異なる生き方、働き方がある環境の中で、シビックプライドの醸成や、温かい未来のための学び、ひたらしさを駆使した多極的な取組を充実させ、全ての若者が自分の暮らしを選択できるための力を養い成長を促す取組に努めます。

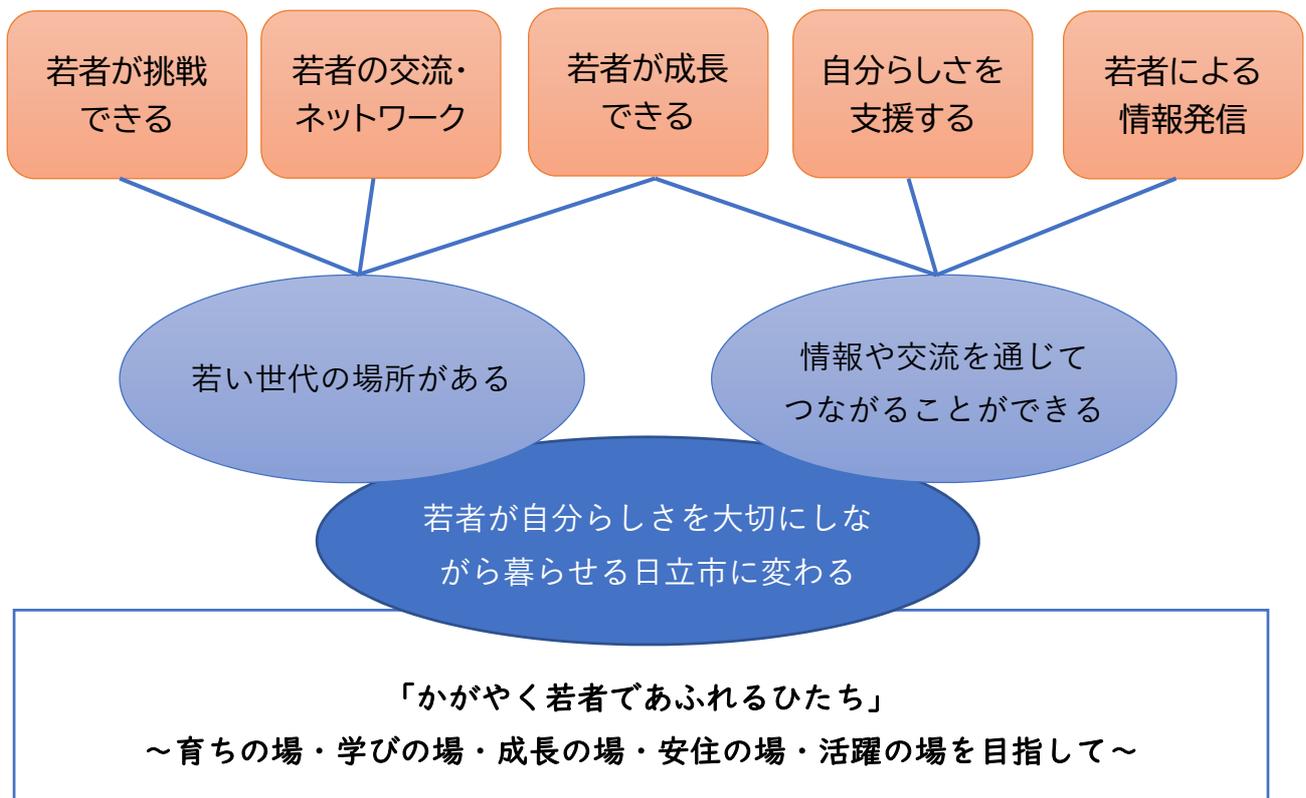
(4) 自分らしさを支援する仕組みづくり

多様な生きづらさを抱えた若者に対する支援や、多様な生き方への理解促進に向けた取組に努めるとともに、生活場面でのライフステージに応じた支援について分かりやすい発信に努めます。

(5) 若者による情報発信の推進

若者の日常のスピード感、ノウハウなど、若者が主体となり情報を発信できる仕組みづくりを推進します。

3 目指すべき姿



「かがやく若者であふれるひたち」は、挑戦を恐れず、自分らしく生き生きと暮らすことができる環境に、若者が集まることで、賑わいが生まれ活気に満ちあふれたまちになることを表しています。

このまちでの暮らしが、育ちの場、学びの場、成長の場、そして何よりも安住、活躍の場となることを見守り支えていきます。

4 「かがやく」とは

「自分らしく生きること」

「かがやく若者」とは、特別なことを実現させている人を指すだけではなく、やりたいことをやっているとき、思いがかなったとき、地元で誇りを持つとき、自分史上最高であるとき、人との縁を感じたときなど、自分らしく生きるとを言います。

V 施策体系



VI 個別施策

基本方針－I 若者が挑戦できる環境づくり

1 若者のアイデアを実践できる組織づくり

若者が主体となり、まちづくりや地域課題解決、関係人口創出等に対する取組を若者の自由なアイデアで実践できる組織をつくります。活動を通じ、日立への愛着や、自らの力で地域を作り上げる想いを育てます。

【取り組みのイメージ】

○18歳から39歳までの若者が集まり、未来志向の対話を通して多様な知恵の融合により、これまでにない独創的なアイデアを生み出し、実践する公共的組織として「(仮称)若者かがやき会議」を設立する。

※(仮称)若者かがやき会議は、若者の誰もが参画でき、自由に意見を出し合える場とする。

○「(仮称)若者かがやき会議」はアイデア出しで終わりではなく、提案者である若者が自らプロジェクトを企画・立案・実践していくことで「理念」の実現に近づける組織とする。

○若者自身が企画・実践した事業の収益で運営できる仕組みをつくり、組織の自立化を目指す。

2 若者世代の不安を解消できる仕組みづくり

就業や移住・定住、子育てなど、若者は様々な悩みを抱えており、行政担当者にアクセスしたいが、分野別に分けられているなどアクセスしづらい状況であります。

若者世代が気軽に訪れることができ、求める情報にアクセスできる仕組みづくりを行います。

【取り組みのイメージ】

○“ここにすれば解決する”という若者のための窓口「(仮称)若者支援ワンストップカウンター」を設置する。

○若者支援ワンストップカウンターには、訪れた若者のリクエストに対応する「(仮称)若者支援コンシェルジュ」が常駐する。

○自身の経験や知識を踏まえ、若者の活動を応援したい方が登録し、相談内容に応じたアドバイスをする助っ人的な役割として、「若者サポーター」を置く。

○若者支援コンシェルジュは、訪れた方との気軽なおしゃべりから、若者同士の交流機会づくりや、行政窓口や若者サポーターへのアクセスを行う役割となる。

[若者サポーターのイメージ]

- ・ ブログの書き方
- ・ Youtube の活用
- ・ web 会議システムの活用
- ・ 起業準備
- ・ 各種法人設立相談
- ・ チラシの作成 など

3 若者と行政の連携・交流創出

若者は、現在の市政が「若者に向いている」とは感じておらず、市政への関心が薄い一方で、行政は若者の意見やニーズを把握する必要性を感じています。

行政と若者の接点を増やし、若者の意向を把握できる機会の創出と、主体的に活動する若者を行政が支援できる仕組みづくりを行います。

【取り組みのイメージ】

- 若者と行政が接する機会として、(仮称)若者かがやき会議を中心とした若者と、若手市職員による「(仮称)若者&行政カウンスル」を設立し、政策等について継続的に意見交換を行う。
- 「(仮称)若手&行政カウンスル」では、意見交換以外に親睦会や共催イベントを実施し、親睦を深めるとともに、共通認識を図る機会をつくる。
- 行政の政策課題(地域づくり、まちづくり、産業・観光振興、教育など)を議論する場に、若者がメンバーとして参画する仕組みをつくる。
EX) (仮称)ひたち若者会議メンバーなどの各種若者団体などから選出
- 行政は、若者の主体的な活動に対し、各種支援を行う。

4 若者実践による出会い・発見・賑わい創出

若者世代が主体となり、若者の自由な創造性を反映させたイベントを開催し、出会いや交流の機会、さらには、まちの賑わいづくりとなる仕組みづくりを行います。

【取り組みのイメージ】

- 若者の出会いの支援や世代間交流による知識や技術を継承する機会となるイベントや交流事業を「(仮称)若者かがやき会議」が主体となり運営する。

【イベントイメージ】

- ・自分みがき講座：自分にとって心地よいライフスタイル講座の開催
- ・恋活応援イベント：日立の自然を活かしたキャンプなどを通して集まった若者同士が交流できるイベントの実施
- ・賑わいイベント：日立らしさを広く知ってもらい、県外からも多くの人が行き交い、まちに活気あふれるイベントの実施 など

5 各コミュニティとの連携(地域形成支援)

若者は、地域コミュニティを含めた多様なコミュニティとのつながりを求めているが、つながれない現状があることから、つながりやすい仕組みづくりを推進します。

【取り組みのイメージ】

- 各種コミュニティと若者の接点をつくるため、各種コミュニティのイベントに参画機会を創出する。
EX) (仮称)若者かがやき会議や各種若者団体等が、さくらまつり、産業祭などへの参画
- 若者が地域とのつながりを持つため、本市の特徴である地域コミュニティへの参画機会を創出する。
EX) (仮称)若者かがやき会議や各種若者団体等が、地域コミュニティ事業に参加し、体験することで、地域コミュニティの歴史や関り方を学ぶ。

基本方針－２ 若者の集まれる場をつくる

1 若者が気軽に集える場所づくり

若者の交流やネットワークづくりを支援するとともに、街なかに若者たちの活気と賑わいが生まれ、若者が気軽に集い交流できる場所を整備します。

【取り組みのイメージ】

- カフェ、wi-fi等、若者が“欲しい”設備を備え、若者が集まり交流する拠点となる「(仮称)若者交流カフェ」を整備する。
 - (仮称)若者交流カフェは、既存コミュニティ以外でも気軽にくつろげる場として、「みんなの第二の家」をコンセプトに整備する。
 - (仮称)若者交流カフェには、イベントやミーティングができるスペースを整備する。
 - (仮称)若者かがやき会議の活動拠点として、様々なアイデアを実践していく中で、若者と社会をつなげ、新しい価値を世の中に提供し、若者のエネルギーで、まちの賑わい創出につなげる。
 - (仮称)若者交流カフェは、(仮称)若者かがやき会議が飲食店や小商いなどの収益で自走できることを目指し運営する。
 - (仮称)若者支援コンシェルジュの拠点場所になる。
- ※詳細は次年度以降に検討

2 若者によるコミュニティづくり

(仮称)若者交流カフェを基点に、人と人を繋ぎ、新しい発見や学びを得られる機会の創出や交流できるイベント等を若者自身により企画・実践し、若者同士の交流やまちの賑わい創出につなげます。

また、若者だけでなく、まちの人々やまちの企業など、多世代交流も実現させ、人と人とのつながりを生み出すことができる場とします

【取り組みのイメージ】

- (仮称)若者交流カフェは、まちの方々にとって、若者の活動を知り、関わる接点となり、世代間を超えた交流の場所とする。
 - 商店街やまちの企業にとっては、効率的にマーケティングを行うことや、企業と学生をつなぐ橋渡しの役割となる場所にする。
 - (仮称)若者交流カフェを基点に、賑わいを創出するため、若者の起業やビジネス交流が生まれる場所とする。
- EX)周辺の空き店舗を活用したインキュベート施設づくり

基本方針－3 若者が成長できる環境づくり

1 キャリア形成・生きる力を養う

どんな大人になりたいのか、自分が何をしたいのかなど、知る機会を創出し、中・高校生の学校以外での学びの場をつくります。また、子どもたちの未来が温かい人間関係で満たされ、一人ひとりの個性が尊重できる社会に近づくための取組を推進します。

【取り組みのイメージ】

- 中学校、高等学校での学び以外に「日立を知る」「日立を体験する」機会の創出を図る。
- 国際化やジェンダー平等など、多様性への理解を深めるとともに、自分らしいライフプランづくりの学びを支援する。
EX) “日立に関心のある生徒”を募集しロールモデルセミナーを実施する。
フィールドワーク、稼ぐことを知るセミナー、20代・30代の人生論など

2 ひたらしさと若者の融合

多くの企業が立地している基盤を生かし、市内企業や行政課題に対し、若者が挑戦できる仕組みづくりに努めるとともに、行政と連携した仕組みづくりを推進します。

【取り組みのイメージ】

- 企業等では、様々な技術や人材を有しているが、市場の情報や情報技術を活用しきれない企業等に対し、企業が必要とするスキルを持つ若者をマッチングし、商品開発や販路拡大を目指す。
- ものづくりのまちとして、市内企業の事業分野や必要とする人材について、若者に向けた情報発信を強化する。
- 移住者増加を目指し、住まい情報や移住に係る経費補助等の制度を広く周知する。

3 働き方や暮らし方の多様性への対応

自分らしい働き方を求める若者が増加しており、従来とは異なる働き方へと変化していることから、まちの資源を活かしながら、若者が成長できる環境づくりに努めます。

【取り組みのイメージ】

- 若者の起業・創業の場として、空き店舗や空き工場などを活用できる情報の充実を図り、行政によるマッチング機能を強化する。
- 起業・創業へのハードルを低くするため、セミナーの充実、セーフティーネットの周知を行う。
- テレワークやスモールビジネスを支援するため、コワーキングスペースを整備する。
- 住む場所と働く場が異なる時代となる中で、日立が働く場に選ばれるための働きかけを行う。
EX) 市内のどこでも「Wi-Fiがつながるまち」となる整備

基本方針－４ 自分らしさを支援する仕組みづくり

1 生きづらさを抱えた若者の支援

多様な生き方がある中で、多様な生きづらさを抱えた若者に対する偏見と誤解を取り除き、支援の必要性への理解促進を図るとともに、行政と連携した仕組みづくりを推進します。

【取り組みのイメージ】

- 多くの若者が将来への不安を持つ中で、ジェンダー平等の学びの充実や障害、貧困などを理解し、支援に繋がる仕組みづくりを行う。
- （仮称）若者支援ワンストップカウンターに、パンフレットなどを配備し、広く周知する。また、若者自身の体験や行政情報をセミナー形式で実施するなど、多様な生き方への理解促進を図る機会をつくる。

2 ライフステージサポートの仕組みづくり

若者世代が日立市に住むことが楽しい、働く場として日立市を選択したいと思えるような、生活場面でのライフステージに応じた支援を分かりやすく発信します。

【取り組みのイメージ】

- 結婚や子育て、就職支援等についての施策はあるものの、若者に分かりづらい仕組みとなっていることから、ライフステージに応じた支援パッケージ「（仮称）ライフステージサポートプラン」を作成する。
- （仮称）ライフステージサポートプランを、SNS等で広く発信するとともに、（仮称）若者支援ワンストップカウンターでの活用も図る。

基本方針－５ 若者による情報発信の仕組みづくり

1 若者が関心を持つ情報発信の仕組みづくり

若者世代が求める即時性と双方向性のあるSNS等を活用した情報発信の推進を図るとともに、紙媒体や報道機関等なども活用するなど、時代に合った情報発信の充実を図ります。また、発信内容へのアクセラが容易にできる仕組みづくりに努めます。

さらに、SNSは行政窓口としての役割も期待されることから、新たな行政サービスの提供方法についても検討を進めます。

【取り組みのイメージ】

- 若者の主たる情報ツールとなっているスマートフォンに対応した情報発信を行うため、アプリなどを活用した行政システムやサービスの構築に、若者の視点を取り入れる。
 - ※「(仮称)若者&行政カウンスル」で意見交換を行う。
- 若者の交流や活動を発信するため、若者による広報誌発行や若者主体のローカルFMを検討する。
 - EX)「(仮称)若者かがやき会議」広報誌の発行

2 日立市に根付いた若者活動の発信

若者主体となり実践することを情報発信することで、まちの活性化が期待できることから、若者活動の情報発信の充実を図ります。

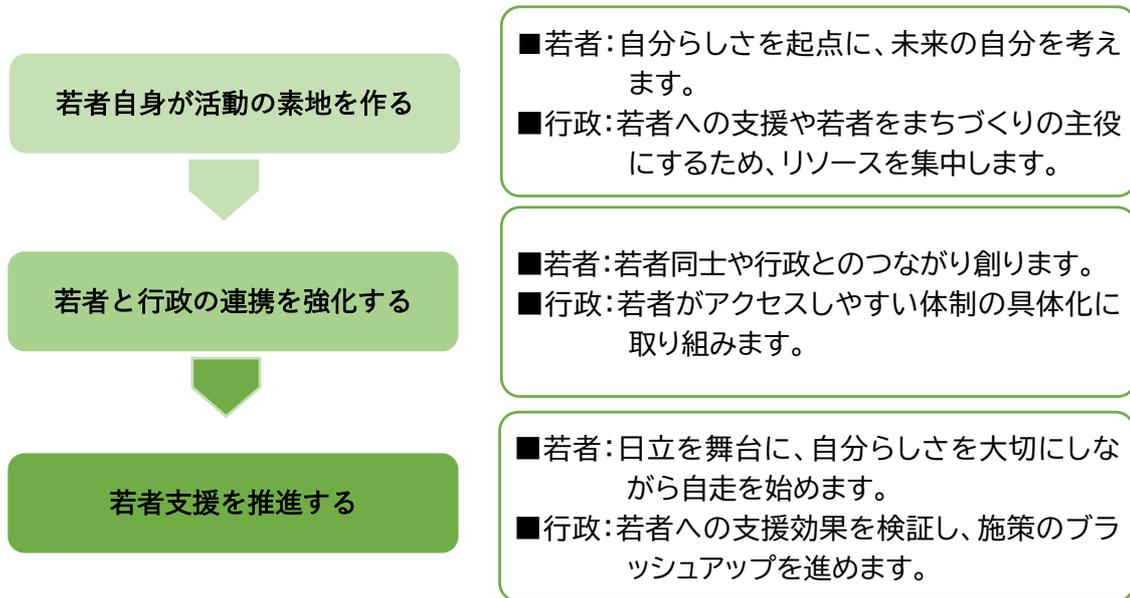
また、関係人口拡大のため、当市の魅力を発信できる仕組みづくりを行います。

【取り組みのイメージ】

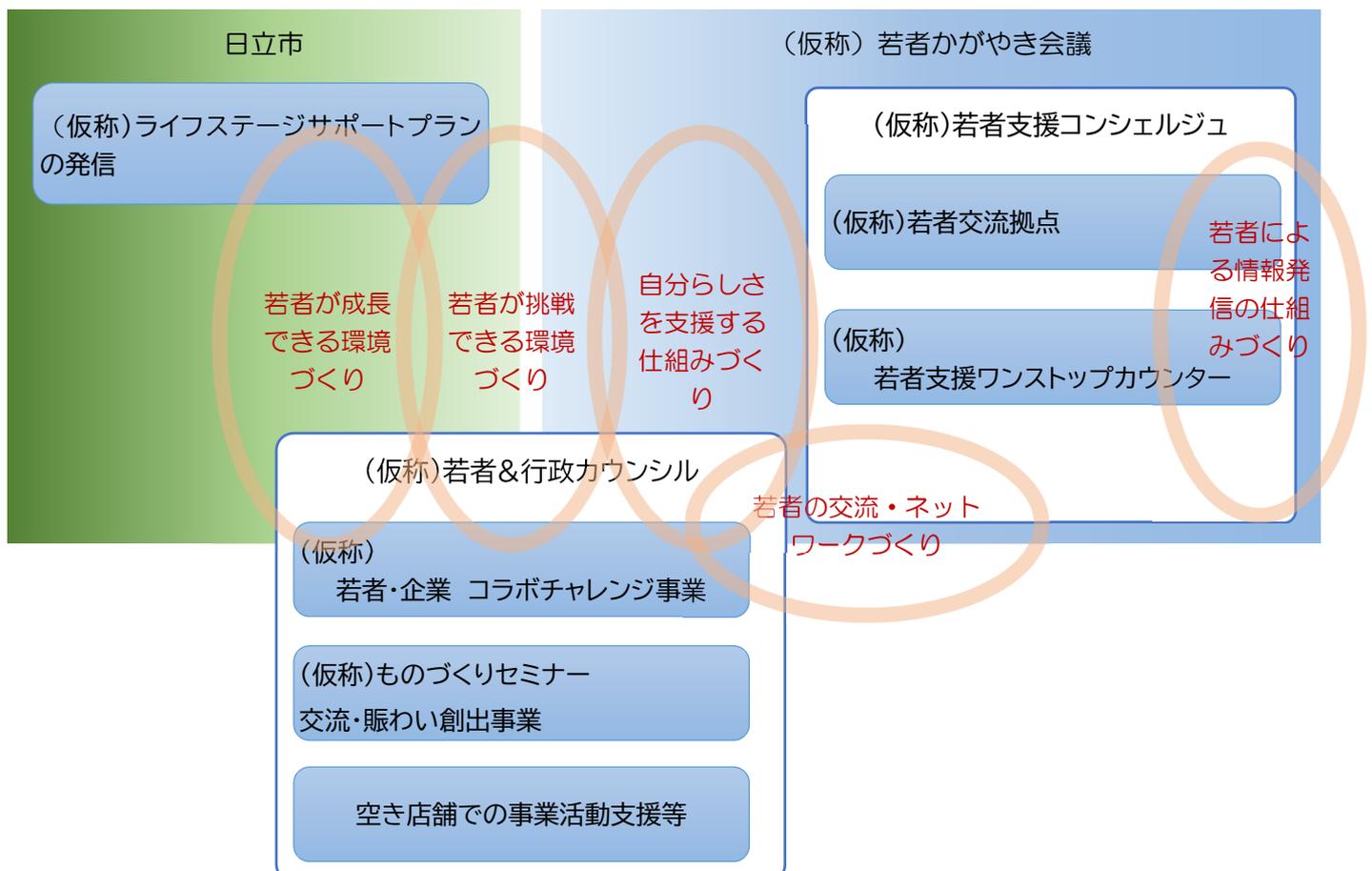
- (仮称)若者かがやき会議を中心とした若者の活動をSNS等で随時発信する。
- 日立市を舞台に、暮らしを営み、活動する若者の情報を広く発信するため、若者と行政が協働で「(仮称)若者向けの情報サイト」を開設する。
 - ※「(仮称)若者&行政カウンスル」で意見交換を行う。

VII 計画の取り組み方

この計画は、若者と日立市が協働しながら取り組めるよう、計画期間である5年間のステップは次のとおりとします。



また、本計画で位置づけた組織や施策の推進するための、行政と若者（（仮称）若者かがやき会議）の役割は、次のように想定します。



ここにライフスタイル？（総合計画 44～45 のような）

コンサル作成中

